平成 26 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」

三　山　吉　夫（みつやま　よしお）
藤元メディカルシステム大悟病院認知症疾患医療センター
1936 年 10 月 30 日生まれ

【授賞理由】

三山氏は，臨床研究の過程のなかで認知症の成り立ちを考察し，そこから導かれる適切な対応方法を医療・介護職のみならず認知症にかかわるすべての人々に提唱し続けてきました．これは認知症ケアの標準化という尊い目標への挑戦であり，地域福祉の礎を築いたといえます．

【略歴】

1967 年　3 月	九州大学医学部大学院修了
1969 年　4 月～1970 年 11 月	大牟田労災病院神経科
1970 年 12 月～1973 年　3 月	九州大学医学部精神神経科
1973 年　4 月～1977 年　3 月	国立小倉病院精神科
1977 年　4 月～2003 年 11 月	宮崎医科大学精神医学講座
2003 年 12 月～	大悟病院認知症疾患医療センター

【褒賞】

宮崎日日新聞賞科学賞（2003），精神保健福祉事業功労者厚生労働大臣表彰（2011）

【業績および活動内容】

1964 年から今日まで認知症の臨床研究に従事してきた．臨床研究の過程において，認知症の症候の成り立ちを考察しながら，対応（ケア）を研修医や看護師に指導してきた．また，地元の認知症ケアにかかわる人々に対し認知症の知識普及に努めた．

2003 年以降は，宮崎県に認知症に特化した施設を開設し，認知症の診療のかたわら地域で認知症の専門職を養成することを目標に講義や講演活動等に力を注いでいる．

【主な著書・論文】

1）三山吉夫：老人におけるうつ状態のプライマリケア．老年精神医学雑誌，6（6）：677-682（1995）．
2）三山吉夫：痴呆の前駆症状としてのうつ状態．老年精神医学雑誌，11（12）：1398-1402（2000）．
3）三山吉夫：認知症を伴う高齢者の終末期の現状と課題．老年精神医学雑誌，22（12）：1363-1368（2011）．